



金や銀はどうやってつくるの

金は自然金、銀は銀鉱石などにふくまれている

金や銀は、白金などとともに、少ししかとれない、値打ちの高いものです。美しくかがやき、うすくのばしたり、細長くしたり、自由に細工することができます。

金は自然金(自然にある金)や、砂金としてとれます。金の鉱石に入っている石英の中に、細かい自然金のつぶが、入っています。

また、金をふくむ鉱石が、細かくくだけで川などに流されると、金のつぶは重いので、川底などの、砂の中にたまります。これを砂金といいます。

銀は、金がふくまれている、自然銀としてとれるほかに、輝銀鉱や濃紅銀鉱、角銀鉱などの鉱石や、銅や鉛などの鉱石に、ふくまれています。

混ざりものを取り除く

金は、自然金や砂金などから、金のほかの混ざりものを、取り出してつくります。また銅や鉛をつくるときの、銅や鉛の鉱石に、少しふくまれている金を取り出して、金をつくります。

銀は、銀の鉱石、銅や鉛の鉱石から、電解精錬(電気の力を使い、混ざりものを除く)という方法で、銀を取り出してつくります。(監修・青木 国夫)

